

五間。往還より馬場へ馬道幅五間、土手の高さ二尺。馬場の長さ京間百八十間、幅越前間六間であつた。

**タツミハヤト** 辰巳隼人 横山長知に仕へ。

大聖寺攻撃の際一番に二ノ丸に乘入り、戦後知行を増して四百石を受け、長知の子康玄に屬せしめられた。次いで大坂役に従ひ、その夏役に首二級を得て二ノ所の傷を負ひ、前田利常から銀二枚・帷子二つを賞賜せられた。

**タツミヨウスイ** 辰巳用水 寛永八年金澤城火災の後、城内水利の便を補はんが爲、翌九年石川郡上辰巳村から犀川の水を引き、之を二ノ丸に導いた。その水路、後の兼六園内に至るまで二里四十四間、その間に隧道を穿つこと三十二町五十間に及ぶといふ。工事は小松の木板屋兵四郎が之を計畫した。兵四郎は下村氏で、測量算勘のことに詳しかつた。↓イタヤヒヨウシロウ 板屋兵四郎。

**タツミヨリヒサ** 辰巳頼久 通稱次郎作。要人。祖甚五左衛門から五代の孫。祿三百三十石で、組外から大小將に轉じたが、文化十四年十月九日江戸で自殺した。子清太夫安貞、文政二年祖父勤七郎の名跡として、新たに百三十石を受けた。

**タツヤタニ** 龍谷谷 白山の尾添口登路の間に在る龍谷渡の絶壁下で、その水西南流し、左右の小澗水を合はせて目附谷に注ぐ。

**タツヤノワタリ** 龍谷ノ渡 白山尾添口登路の間に在る。元祿圖には大刀矢谷に作る。渡とは谷に添ふ山路の義である。

**タツヤマジエ** 龍山慈影 江沼郡大聖寺 眞宗東派願成寺二十代の住持。號は天香。天保八年越後刈羽郡中濱願成寺に生まれ、安政

元年京に出て學び、文久三年寮司となり、明治元年本願寺殿如の命により、長崎に赴いて基督教を研究し、六年擬講に進み、七年願成寺を襲いで龍山氏を稱し、廿九年嗣講、三十四年講師に任じ、三十五年上座の恩許を受け、四十一年普宿待童に任じ、四十四年權僧正に、大正十年一月四日僧正に補せられて示寂、年八十五。存命中香温院の號を受けた。

**タヅルハマ** 田鶴濱 鹿島郡高田保に屬する部落。館濱とも龍濱とも書くは、元來タヅガハマというた名残であらう。大永六年十月一宮社務職年貢納帳には田鶴濱と書いてある。能登名跡志に、『家數二百軒餘あり。商家多能き村也。此村昔は長家の城下にて繁昌成し也。惣じて此邊を新郡といへり。則長家菩提所東嶺禪寺、寺領三十石密附の大寺なり。同宗悅叟寺とて寺領十石。長家の館跡は、今御收納蔵屋敷になつてあり。則馬場などあり。亦百姓に中村屋とて、長家由緒の者あり。又永江平兵衛とて、長家々人の筋目あり。惣じて此村今も商船着て、諸事運送自由の處也。此近郷は能登密柑の名物也。』と見える。この地長氏の居館の地となつてゐたのは、連龍の天正末年から尙連の寛文十一年までであり、その館跡は邑の南なる新郡口といふ所にあつて、後に藩の米廩となつた。門前の街は殿町といはれる。

**タヅルハマノタテ** 田鶴濱の建具 鹿島郡田鶴濱では建具の製造が熾である。その起源に就いて文獻の徵すべきものはないが、口碑に據れば、長連頼がこの地を領し、慶安三年東嶺寺を再建せんとして、尾張から二人の職工を招き、戸障子を造らしめた時、村民の

中その技を習うたものあるに起り、天明中山田屋長四郎が之を營業とするに及んで盛況に赴いたといはれる。

**タテイハ** 立岩 能美郡牛首川の上流右岸で、風嵐・市・潮の略中央に在る岩行。越前名蹟考に、『平岩より一里行て立岩と云所あり。道の左に幅二間餘堅五間許の大石、壁の如くに立てり。上の方前へ傾て危し。其根に清水あり。勝れて冷かなり。』とある。

**タテイハジ** 立岩寺 鹿島郡五十里内の小字。

**タテガシマ** 立ヶ島 鹿島郡能登島なる田尻部落の海上に在る島。

**タテガハナ** 立ヶ鼻 鹿島郡能登島なる無關の部落から北方に在る岬。

**タテカハラマチ** 堅河原町 ↓タテマチ 堅町。

**タテカベ** 立壁 珠洲郡木郎郷に屬する部落。能登名跡志に、『川尻より立壁村へ二十町。川尻より立壁の小坪といふ所へ、舟にて渡れば近し。』とある。

**タテカベ** 帶壁 鳳至郡別所谷内の小字。この帶壁なる天堂といふ所に、畠山氏の臣温井氏の城址があり、附近に兵庫坂の名を存し、別所八幡宮には明應二年温井俊宗の棟札を有し、又日蓮宗成隆寺には温井氏の一つ引兩の紋所を附した箱がある。温井孝宗の法會が、その子總貞に因りて輪島崎聖光寺に營まれたのも、亦相近きが爲であつたらう。

**タテカベ** 帶壁寺 鳳至郡別所谷に在つたといふ。能登誌に、『むかし帶壁寺とて眞言宗の大寺ありしが退轉して、今此別所谷の産神八幡宮の神職に帶壁氏あり。寺の筋目のよ

しいへり。』と記する。

**タテガヤチ** 立ヶ谷内 鳳至郡上町の内の小字。

**タテガヤチタウケ** 立ヶ谷内峠 鳳至郡上町のうち立ヶ谷内から宇出津山分のうち大平に至る峠。

**タテノ** 立野 鳳至郡光浦の内の小字。

**タテノガハ** 立野川 羽咋郡直海領大釜谷内から流出し、同領で米町川の上流に落合ふ。流程二軒餘。

**タテハキチヨウ** 帶刀町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に法船寺町・帶刀町と並べ載せ、國事昌披問答にも、法船寺町の次に帶刀町・大豆田町とある。帶刀町は今元車町に屬してゐる。

**タテバヤシカケイ** 立林何帛 立徳又は白井宗謙とも稱し、太青何帛・喜雨齋・鶴岡逸史・金牛山人などと號して、光琳風の畫をかいた。元文・寶曆頃の人。元加賀藩の醫で後に江戸に亡命したといふが確かでない。

**タテベウチ** 建部氏 白山比咩神社の東神主といはれたもので、その家が何れの時かから神主職に補せられる例を開いたかは明らかでないが、本地堂の鐘銘には『元和五年六月吉日東神主建部守澄・西神主上道氏弘』などと見える。又東神主の語の初見は、蜷川親元日記に『寛正六年九月二日丁未曇微雨、相原伊賀守就所望被遣御狀云。杉原伊賀守方知行分水島保内末正名事、東神主無故及違亂候之旨就被歎申、可被沙汰付領主之由堅被仰付候云々。』といふにある。寛永中西神主は斷絶したが、東神主は明治まで繼續した。建部氏は後世ケンベと訓んでゐる。

タツ——タテ